

シラバス

担当講師 石川郁美

名称 社会福祉法人 和光福祉会

科目番号・科目名	①職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事をおこなうのか具体的にイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学 学習時間 数	うち通信 学習時間 数	講義内容・演習の実施方法
1)多様なサービスの理解	1	1		1 介護保険サービス、介護保険以外のサービスについて理解する。
2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		1 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事の内容の理解 2 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ 3 ケアプランの位置付けに始まるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携。
合計時間数	4	4		

使用する物品等	日本医療企画 介護職員初任者研修テキスト・DVD
---------	--------------------------

シラバス

担当講師 岩田由実

名称 社会福祉法人 和光福祉会

科目番号・科目名	②介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学 学習時間 数	うち通信 学習時間 数	講義内容・演習の実施方法
1)人権と尊厳を支える介護	6	6		1 人権と尊厳の保持について理解する 2 介護分野におけるICFについて理解する 3 QOLの考え方、生活の質について理解する 4 ノーマライゼーションについて理解する 5 虐待防止・身体拘束防止について理解する 6 個人の権利を守る制度の概要を理解する
2)自立に向けた介護	3	3		1 自立支援について理解する 2 介護予防について理解する
合計時間数	9	9		

使用する物品等	日本医療企画 介護職員初任者研修テキスト・DVD
---------	--------------------------

シラバス

担当講師 雨宮彩 市川博行

名称 社会福祉法人 和光福祉会

科目番号・科目名	③介護の基本			
指導目標	1 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 2 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学 学習時間 数	うち通信 学習時間 数	講義内容・演習の実施方法
1) 介護職の役割、専門性と他職種との連携	2	2		1 介護環境の特徴を理解する ・訪問介護、施設介護の違い ・地域包括ケアの方向性 2 介護の専門性を理解する ・重度化防止、遅延化の視点 ・利用者主体の姿勢 ・自立した生活を支えるための援助 ・根拠のある介護 ・チームケアの重要性 ・事業所内のチーム ・他職種からなるチーム 3 介護にかかわる職種を理解する ・異なる専門性を持つ他職種の理解 ・介護支援専門員 ・サービス提供責任者 ・看護職等とチームとなり利用者を支える意味 ・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ・チームケアにおける役割分担
2) 介護の職業倫理	1	1		1 職業倫理を理解する ・専門職の倫理の意味 ・介護の倫理 ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護、尊重
3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2		1 介護における安全の確保を理解する ・事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ・リスクとハザード 2 事故予防 安全対策について理解する ・リスクマネジメント ・分析の手法と視点 ・事故に至った経緯の報告(家族 市町村への報告) ・情報の共有 3 感染対策について理解する ・感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断) ・感染に対する正しい知識
4) 介護職の安全	1	1		・介護職の心身の健康管理を理解する ストレスマネジメント 腰痛予防 感染症対策
合計時間数	6	6		
使用する物品等	日本医療企画 介護職員初任者研修テキスト			

シラバス

担当講師 中尾泰次 鈴木亜希子

名称 社会福祉法人 和光福祉会

科目番号・科目名	④介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービスの流れ、各専門職の役割、責務について、その概要のポイントを列挙できるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学 学習時間 数	うち通信 学習時間 数	講義内容・演習の実施方法
1)介護保険制度	3	3		1 介護保険制度創設の背景及び目的、動向を理解する ・ケアマネジメント ・予防重視型システムへの転換 ・地域包括支援センター設置 ・地域包括ケアシステムの推進 2 仕組みの基礎を理解する ・保険制度としての基本的な仕組み ・介護給付と書類 ・予防給付 ・要介護認定の手順 3 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割を理解する ・財政負担 ・指定介護サービス事業者の指定
2)医療との連携と リハビリテーション	3	3		・医療行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割、連携 ・リハビリテーションの理念
3)障害者自立支援制度と その他制度	3	3		1 障害者福祉制度の理念について理解する ・障害の概念 ・ICF(国際生活機能分類) 2 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ・介護給付、訓練等級の申請から支給決定 3 個人の権利を守る制度の概要の理解 ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業
合計時間数	9	9		

使用する物品等	日本医療企画 介護職員初任者研修テキスト
---------	----------------------

シラバス

担当講師 菅原卓博

名称 社会福祉法人 和光福祉会

科目番号・科目名	⑤介護におけるコミュニケーション			
指導目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職には求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学 学習時間 数	うち通信 学習時間 数	講義内容・演習の実施方法
1) 介護における コミュニケーション	3	3		<ol style="list-style-type: none"> 介護におけるコミュニケーションの意義 目的、役割を理解する <ul style="list-style-type: none"> 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 傾聴 共感の応答 コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーションを理解する <ul style="list-style-type: none"> 言語的コミュニケーションの特徴 非言語的コミュニケーションの特徴 利用者、家族とのコミュニケーションの実際を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> 利用者の思いを理解する 意欲低下の要因を考える 利用者の感情に共感する 家族の心理的理解 家族へのいたわりと励まし 信頼関係の形成 自分の価値観で家族の意向を判断し批難することがないようにする アセスメントの手法とニーズとでマインドの違い 利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> 視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 失語症に応じたコミュニケーション技術 構音障害に応じたコミュニケーション技術 認知症に応じたコミュニケーション技術
2) 介護におけるチームの コミュニケーション	3	3		<ol style="list-style-type: none"> 介護における情報の共有化 <ul style="list-style-type: none"> 介護における記録の意義 目的、利用者の状態をふまえた観察と記録 介護に関する記録の種類 個別援助計画書 (訪問・通所・入所・福祉用具貸与等) ヒヤリハット報告書 5W1H 報告 <ul style="list-style-type: none"> 報告の留意点 連絡の留意点 相談の留意点

				3 コミュニケーションを促す環境 <ul style="list-style-type: none"> ・会議 ・情報共有の場 ・役割の認識の場 (利用者と頻回に接触する介護者に求められる 観察眼) ・ケアカンファレンスの重要性
合計時間数	6	6		

使用する物品等	日本医療企画 介護職員初任者研修テキスト		
---------	----------------------	--	--

シラバス

担当講師 関塚永一 桜田清美

名称 社会福祉法人 和光福祉会

科目番号・科目名	⑥老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学 学習時間 数	うち通信 学習時間 数	講義内容・演習の実施方法
1) 老化に伴うこととからだの変化と日常	3	3		1 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・防衛反応(反射)の変化 ・喪失体験 2 老化に伴う心身の機能変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化と日常生活への影響 ・咀嚼機能の低下 ・筋、骨、関節の変化 ・体温維持機能の変化 ・精神的機能の変化と日常生活への影響
2) 高齢者と健康	3	3		1 高齢者の疾病と生活上の留意点 ・骨折 ・筋力の低下と動き、姿勢の変化 ・関節痛 2 高齢者に多い病気と日常生活の留意点 ・循環器障害 (脳梗塞 脳出血 虚血性心疾患) ・循環器障害の危険因子と対策 ・老年期うつ病症状 (強い不安感、焦燥感が背景の訴えの多さが全面的に出る、うつ病性仮性認知症) ・誤嚥性肺炎 ・病状の小さな変化に気づく視点 ・高齢者は感染症にかかりやすい
合計時間数	6	6		

使用する物品等	日本医療企画 介護職員初任者研修テキスト
---------	----------------------

シラバス

担当講師 関塚永一 川村智子

名称 社会福祉法人 和光福祉会

科目番号・科目名	⑦認知症の理解			
指導目標	介護者において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学 学習時間 数	うち通信 学習時間 数	講義内容・演習の実施方法
1) 認知症を取り巻く状況	1	1		1 認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点 (できる事に着目する)
2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	3	3		1 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント 健康管理 ・認知症の定義 ・もの忘れとの違い ・せん妄の状態 ・健康管理 (脱水、低栄養、低運動の防止、口腔ケア) ・治療 ・薬物療法 ・認知症に使用される薬
3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	1	1		1 認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴 ・認知症の中核症状 ・認知症の行動、心理症状(BPSD) ・不適切なケア ・生活環境で改善 2 認知症利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない ・相手の世界に合わせる ・失敗しないような状況をつくる ・すべての援助行為がコミュニケーションである と考える ・身体を通じたコミュニケーション ・相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する ・認知症の進行に合わせたケア
4) 家族への支援	1	1		・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減(レスパイトケア)
合計時間数	6	6		

使用する物品等	日本医療企画 介護職員初任者研修テキスト
---------	----------------------

シラバス

担当講師 中尾泰次 岩淵由美子 桑原利美

名称 社会福祉法人 和光福祉会

科目番号・科目名	⑧障害の理解			
指導目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学 学習時間 数	うち通信 学習時間 数	講義内容・演習の実施方法
1)障害の基礎的理解	1	2		1 障害の概念とICF ・ICFの分類と医学的分類 ・ICFの考え方 2 障害者福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの概念
2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	1	3		1 身体障害 ・視覚障害 ・聴覚、平衡障害 ・音声、言語、咀嚼障害 ・肢体不自由 ・内部障害 2 知的障害 ・知的障害 3 精神障害(高次機能障害、発達障害を含む) ・統合失調症、気分(感情障害)、依存症などの精神疾患 ・高次機能障害 ・広汎性発達障害、学習障害 注意欠陥多動性障害などの発達障害 4 その他の心身の機能障害
3)家族の心理、かかり支援の理解	1	2		1 家族への心理 ・障害の理解・障害の受容支援 ・介護負担の軽減
合計時間数	3	7		

使用する物品等	日本医療企画 介護職員初任者研修テキスト
---------	----------------------

シラバス

担当講師 半田弥子 小川美香 金子美沙 池亀優子
田島美菜子 相島律子 吉田恵 友成峻弥
桑原利美 飯塚和世 末永申 齊藤紅
雨宮彩

名称 社会福祉法人 和光福祉会

科目番号・科目名	⑨～⑫ころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活支援を支える介護技術や知識を習得する。 主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要外語度に応じた在宅、施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 要介護や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防、介護予防プログラムにより機能低下の予防の考え方や予防の考え方や方法を列挙できる。 利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 人の記憶の構造や意欲等の支援と結び付けて概説できる。 人体の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる。 家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 装うことの整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 体位変換と移動、移乗の意味と関連する用具、機器やさまざまな車イス、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位交換と移動、移乗に関するかただのしくみが理解され、指示に基づいて介護を行うことができる。 食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 入浴の意味と入浴を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ターミナルケアの考え方、対応のしかた、留意点、本人、家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について、列挙できる。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち通学 学習時間 数	うち通信 学習時間 数	講義内容・演習の実施方法
⑨介護の基本的な考え方	2	2		<ul style="list-style-type: none"> 理論に基づく介護 (ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) 法的根拠に基づく介護
⑩介護に関するころのしくみの基礎的理解	5	5		<ul style="list-style-type: none"> 学習と記憶の基礎知識 感情と意欲の基礎知識 自己概念と生きがい 老化や障害を受入れる適応行動とその阻害要因 ころの持ち方が行動に与える影響 からだの状態がころに与える影響
⑪介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	5		<ul style="list-style-type: none"> 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 中枢神経等と体性神経に関する基礎知識 自立神経と内部器官に関する基礎知識 ころとからだを一体的に捉える 利用者の様子と普段の違いに気づく視点
				1 家事と生活の理解、家事援助に関する

⑫生活と家事	5	5	<p>基礎的知識と生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活歴 ・自立支援 ・予防的な対応 ・主体性、能動性を引き出す ・多様な生活習慣 ・価値観 <p>《演習方法》 担当講師1名 補助講師1又は2名技術指導を実施。 実技内容:生活と家事に関連した基本的な介護技術を習得する。</p>
⑬快適な居住環境整備と介護	3	3	<p>快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <p>《演習方法》 担当講師1名 補助講師1又は2名技術指導を実施 実技内容:快適な住環境整備に関連した基本的な介護技術を習得する。</p>
⑭整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5	<p>1 整容に関する基礎知識、整容の支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の状態に合わせた衣類の選択、着脱 ・身支度 ・整容行動 ・洗面の意義、効果 <p>《演習方法》 担当講師1名 補助講師1又は2名技術指導を実施 実技内容に整容に関連した基本的な介護技術を習得する。</p>
⑮移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	11	11	<p>1 移動、移乗に関する基礎知識、さまざまな移動、移乗に関する用具とその活用方法 利用者、介助者にとって負担の少ない移動移乗を阻害するところとからだの要因の違いと支援の方法、移動、社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ・利用者の自然な動きの活用 ・残存能力の活用 自立支援 ・重心 重力の働きの理解 ・ボディメカニクスの基本原理 ・移乗介助の具体的な方法 (車イスへの移乗の具体的な方法、全介助でのベット車イス間の移乗、全介助での車イス、様式トイレ間の移乗) ・移動介助(車イス、歩行器、つえ等) ・褥瘡予防 <p>《演習方法》 担当講師1名 補助講師1又は2名技術指導を実施 実技内容:移動・移乗に関連した基本的な介護技術を習得する。</p>
			<p>1 食事に関する基礎知識、食事環境の整備 食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p>

<p>⑩食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事をする意味 ・食事のケアに対する介護職の意識 ・低栄養の弊害 ・脱水の弊害 ・食事と姿勢 ・咀嚼、嚥下のメカニズム ・空腹感 ・満腹感 ・好み ・食事の環境整備(場所、時間等) ・食事に関する福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義 ・誤嚥性肺炎の予防 <p>《演習方法》 担当講師1名 補助講師1又は2名技術指導を実施 実技内容:食事に関連した基本的な介護技術を習得する。</p>
<p>⑪入浴、清潔に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>1 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心や遠慮への配慮 ・体調確認 ・全身清拭 (身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方 身体の支え方) ・目、鼻、腔、耳、爪の清潔方法 ・陰部洗浄(臥床状態での方法) ・足浴、手浴、洗髪 <p>《演習方法》 担当講師1名 補助講師1又は2名技術指導を実施 実技内容:入浴清潔に関連した基本的な介護技術を習得する。</p>
<p>⑫排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>1 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄とは ・身体面(生理面)での意味 ・心理面での意味 ・社会的な意味 ・プライド、羞恥心 ・プライバシーの確保 ・おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害 ・排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担 尊厳や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法 ・便秘の予防 (水分摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ) <p>《演習方法》 担当講師1名 補助講師1又は2名技術指導</p>

			を実施 実技内容:排泄に関連した基本的な 介護技術を習得する。
⑱睡眠関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5	1 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と 用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところと からだの要因の理解と支援方法 ・安眠の為の介護の工夫 ・環境整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための 寝室) ・安楽な姿勢、褥瘡予防 《演習方法》 担当講師1名 補助講師1又は2名技術指導 を実施 実技内容:睡眠に関連した基本的な 介護技術を習得する。
⑳死にゆく人に関したところ とからだのしくみと自立に向 けた介護	1.5	1.5	1 終末期に関する基礎知識とところとからだの しくみ、生から死への過程、死に向き合う ところの理解、苦痛の少ない死への支援 ・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程 (高齢者の自然死(老衰)癌、死 ・臨終が近づいた時の兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・他職種間の情報共有の必要性 《演習方法》 担当講師1名 補助講師1又は2名技術指導 を実施 実技内容:終末期に関連した基本的な 介護技術を習得する。
㉑介護過程の基礎的理解	2	2	・介護過程の目的、意義、展開 ・介護過程とチームアプローチ
㉒総合生活支援技術演習	10	10	(事例による展開) 1 生活での各場面での介護について、ある 状態の利用者を想定し、一連の生活支援 を提供する流れの理解と技術の習得 利用者の心身の状況にあわせた介護を 提供する視点の習得 ・事例展開→ところとからだの力が発揮でき ない要因の分析→適切な支援技術の検討 →支援技術の演習→支援技術の課題 ・事例は高齢者(要支援2程度、認知症 片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択し 実施
合計時間数	69	69	
総合計時間数	131	135	

使用する物品等	日本医療企画 介護職員初任者研修テキスト 車イス 杖 ポータブルトイレ お むつ 差し込み便器 ベット 枕 シーツ ベットマット 掛け布団 包布 クッ ション 食器 コップ 衣類 歯ブラシ ガーグルベース 簡易浴槽等
---------	--

シラバス

指導責任者

和光苑
ナーシングホーム和光
デイケアサービスセンター
ホームヘルパーステーション

菅原卓博
芳野倫之
文蔵由起子
池亀優子

名称

社会福祉法人 和光福祉会

科目番号・科目名	23 見学等実習			
指導目標	介護施設等での実習を通し、研修全体を振り返り、本研修を通して学んだことについて再認識を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習の課題の認識をはかる			
項目番号・項目名	時間数	うち通学 学習時間 数	うち通信 学習時間 数	講義内容・演習の実施方法
1)多様なサービスの理解	1	8		1 介護保険サービス、介護保険以外のサービスについて理解する。
2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	8		1 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事の内容の理解 2 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ 3 ケアプランの位置付けに始まるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携。
合計時間数	4	16		